

## これからの附属学校のあり方を考える協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝出口利定・東京学芸大学長）は、11月24日（金）、全国国立大学附属学校連盟との共催により、これからの附属学校のあり方を考える協議会をお茶の水女子大学講堂（東京都文京区）において開催し、附属学校園を置く国立教員養成大学・学部の附属学校担当理事・副学長・学部長、附属学校園の校園長・副校園長・主幹・生徒指導主任等をはじめとする関係者約400名が出席した。

開会の挨拶で出口会長は、『国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書』では、附属学校園の存在意義やあり方の明確化について言及されている。今回の協議会を、先進的な教育改革を実践している学校の事例を共有し、それぞれの学校目標に照らし合わせ、更なる学校改革を断行する決意を外部に発信する機会とするとともに、国立教員養成大学・学部と附属学校園が一体となり、共に成長・発展するための一歩としたい。」と述べた。

続いて、丸山研一副会長（全国国立大学附属学校連盟理事長・千葉大学教育学部附属中学校長）の挨拶では、「現在、附属学校園は大きな岐路に立っている。これまで、附属学校園の姿を外部に発信していくことが必ずしも十分ではなかった。今後、全国の附属学校園が連携を深め、附属学校園の取組等を可視化していく努力が必要である。また、国立教員養成大学・学部の協力がなければ、附属学校園の改革はなし得ない。大学・学部と附属学校園が協力し、次の時代へと向けた取組を進めていきたい。」と述べた。

その後、文部科学省の説明として、柳澤好治高等教育局大学振興課教員養成企画室長から、「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」について説明があった。

休憩を挟み、附属学校の先進的な取組事例報告として、河野雄二大分大学教育学部附属小学校長から「大分大学教育学部附属小学校の改革」について、小林一博北海道教育大学附属釧路中学校副校長から「道教委との連携協力・授業実践交流事業の取り組み」について、藤野智子東京学芸大学附属国際中等教育学校副校長から「国際バカロレア校として教員研修学校として多様性を尊重する学校として」について、山本利和大阪教育大学附属特別支援学校長から「地域への貢献・特別支援教育への貢献」について、それぞれ報告があった。

また、松木健一福井大学教職大学院教授・教育学部附属学校園長から、「附属学校の今後のあり方について」と題して講演があった。

最後に、呉本啓郎全国国立大学附属学校PTA連合会長の挨拶及び藤原嘉文附属学校委員会副委員長（全国国立大学附属学校連盟副理事長・山梨大学教授・山梨大学教育学部附属中学校長）の挨拶があり、盛会のうちに閉会となった。



出口会長



丸山副会長・全附連理事長



柳澤教員養成企画室長



河野大分大学  
附属小学校長



小林北海道教育大学  
附属釧路中学校副校長



藤野東京学芸大学附属  
国際中等教育学校副校長



山本大阪教育大学  
附属特別支援学校長



松木福井大学  
教職大学院教授



呉本全附P連会長



藤原附属学校委員会副委員長  
・全附連副理事長



会場の様子